

広島別院だより

Vol.47
冬号

真宗大谷派（東本願寺）
広島別院教化委員会

発行

報恩講が勤まる

昨年十二月四日・五日に報恩講が勤まりました。二人の講師による法話の抄録です。

【日野和雅師 姫路市善覚寺 聞法伝道塾修了者】

●私たちの在り様を悲しむ大悲

阿弥陀仏の慈悲を「大悲」という。これは私たちの在り様を深く悲しむ心である。では、仏様から見た私たちの在り様とはどんなものであろうか。

親鸞聖人のお言葉に「煩惱具足の凡夫、火宅無常の世界」とある。これは、自己の都合でしか物事を考えられず、諸行無常の中で拠り所の無き者ということである。つまり絶対的な真実の分からない凡夫なのである。そのような凡夫を救わずにおれないというのが、大悲なのである。

●真実を偽物にする凡夫

以前、あるお寺の座談会に参加した時、参加者から「真実の宗教と偽物の宗教の違いは？」という質問があった。その座談会に参加していたある僧侶の方が「この世の宗教はすべて偽物です」と答えた。随分、思い切ったことを言うもんだと思ったが、話を聞くと、私に、私たち凡夫が、これが真実だと判別した瞬間にいかなる宗教も偽物になってしまうということだった。私たちの教団も過去に、戦争や差別に加担した歴史がある。私たち凡夫はどこまでも間違えていくのである。そのことを聖人は教えてくださるのだ。



日野和雅 師

●報恩講＝懺悔の心が開かれる仏事

聖人は「よろずのこと、みなもって、そらごとたわこと、まことあることなきに、ただ念仏のみぞまことにておわします」と申された。これは念仏を通して、私が仏様から悲しまれる存在だったと目覚めることである。私たちは自らの在り様を悲しむ「懺悔」という一点においてのみ真実とつながることができるのだ。仏の大悲に照らされなければ、自分の在り様が課題となることはないのである。

報恩講は自らの在り様を悲しむ懺悔の心が開かれることによって知恩報徳の仏事となるのである。

【桑門真昭師 大手町常念寺】

●信心に優劣無し

報恩講では御伝鈔（親鸞伝）が拝読される。その中に法然門下の親鸞聖人と他の門弟たちとの間で起きた信心をめぐる激しい論争の逸話がある。聖人は「私は学徳においては法然上人には遠く及ばないが、他力の信心においては阿弥陀仏から賜ったものなので、私の信心と法然上人の信心はいささかも違わない」と主張したのである。では私自身が、私と親鸞聖人の信心は同じだと胸を張って言えるかという、やはり恐れ多いのである。



桑門真昭 師

●本願と出遇い、同一の道を歩む

なぜ聖人はそこまで言い切ることが出来たのか。その事について聖人は『仏説無量寿経』冒頭の釈尊と阿難の出遇いに注目しておられる。仏弟子阿難にとって、釈尊はあまりにも偉大で憧れの対象でしか

なかった。しかし釈尊が阿弥陀仏の本願を説くことで、阿難の釈尊に対する見方が劇的に変わるのである。人の能力は様々で、偉いと言われる人も言われない人もいる。しかし、如何なる者でも平等にそのまま来い、そのままで救うという阿弥陀仏の本願に阿難は出遇ったのである。

●共に念仏申す親鸞聖人との出遇い

私たちは釈尊を偉大なる者として崇拜してしまう。そしてその能力にあやかろうとする。阿難や聖人と論争した門弟もそうだったのである。しかし、親鸞聖人は出遇うべきは阿弥陀仏の本願であり、信心は同一なのだと教えられた。作家の大江健三郎氏は「無宗教の私にとって、信仰のある人を唯一羨ましく思うのは家族が皆、同じ仏壇に向かって礼拝出来ることだ」と語った。浄土真宗は年長の者も若い者も同じ方向を向いて「南無阿弥陀仏」と念仏を申す教えである。親鸞聖人は決して高みに立ち、崇拜されるような生き方をしなかった。聖人は私たちと共に念仏を申される方なのである。報恩講においてそんな親鸞聖人に出遇えたらと思うのである。

広島別院公式 LINE
です。法要や行事
案内を発信してい
ます。追加は下記
のQRコードから



親鸞聖人の生涯を辿る

教行信証

二〇二四年は浄土真宗の立教開宗八百年の年でした。浄土真宗では一二二四年に親鸞の教行信証（草稿本）が完成した時点をもって立教開宗としています。

教行信証は六巻からなり、ほぼ経典や先達の著作の引用によって構成されています。それは浄土教というものは誰かが勝手に言い出したものではなく、親鸞の出遇ってきた法然の教えをはじめとした仏教の歴史が、浄土教の正しさを証明しているということを表現しています。そして浄土の教えこそが真実であるとして、「浄土真宗」と表しました。

教行信証（草稿本）完成後、何度も加筆や注釈の形跡があることから、親鸞の直筆であることがうかがえます。親鸞の学びや気づきがその都度、教行信証に反映されたのでしょうか。これは坂東本と呼ばれ現在、国宝になっっています。親鸞が生涯をかけて書かれたこの書は、今もそして将来も真宗門徒の信仰の基盤となっています。

法座・講座等のお知らせ

2月22日(土) 仏教入門講座 (第2シーズン)



【講師】 真城義麿 先生 【次回 4月12日(土)】

【日程】 毎回 13:30～16:00 【会費】 500 円

〈日常生活の様々な疑問を仏教に学ぶ講座です。ぜひご参加ください。〉

3月21日(金) 春彼岸会



【講師】 長坂壽一 先生（江田島市 明慶寺）

【日程】 14:00～勤行と法話

16:30 終了予定

彼岸は悟りの世界。昼と夜の時間が等しくなるお彼岸の時節にかたよりのない仏様の教えを聞く法会です。お誘いあわせの上、お参りください。

毎月5日 定例法話 (ご今日の集い)

【講師】 県内僧侶(月替わり) 【日程】 14:00～勤行と法話(15:00 終了予定)

〈広島別院開基 教如上人の御命日(毎月5日)に法話会があります。〉

道場樹【編集室より】

くお育てに遇うく

二〇二五年がスタートしましたね。昨年もあったという間に終わってしまった。今年も心新たに、よし！って感じでしょうか。近年、雪不足（スキ場にとっては）が各地で叫ばれていました。年明けの大寒波は各地で大きな被害をもたらしました。屋根の雪下ろし中に転落、倒木による渋滞、ス tack による渋滞。いろんな事が起こります。

そんな中、九日・十日と大雪が降りまして、別院に向かう途中に大渋滞。どんな状況？って見に行くと、トラック2台がこちらの車線でスタック。それを回避しようとした乗用車が反対車線でスタック。上下線とも大渋滞。どうにもならんじゃん！と思いました。

乗用車（二駆）にこの先にその車で進むのは無理なので引き返しなさい。とアドバイス。運転手は了承して、バックして向きを変えて下ろうと思うが動かず。仕方がないので、スコップで掘ってあげて、押してあげて、バックするのを見てあげて。乗用車は何とか下り始める。よし！通れるようになった。と振り返ったら、スタックした乗用車の目の前で通れるのを待っていた車は、何事もなかったかのように、ブイーンと出発。おいおい！手伝いもせず、有り難うも無しかよ。と苛立ちを隠せませんでした。が、よくよく考えてみたら、みんなが通れるようになっていたので、それで良かったんだよね。求めるから腹が立つんだよね。と、中々、ただ皆を救いたいと思う気持ちになれない自分でした。

(G・M)

真宗大谷派(東本願寺) 〒730-0044 広島市中区宝町 4-16

広島別院 明信院 TEL 082-241-5342 (電話・FAX 共通)

東本願寺 広島別院



ホームページ

検索